

# 2020 年度事業報告書

(2020 年 5 月 1 日から 2021 年 4 月 30 日まで)

一般社団法人つくろい東京ファンド

当法人の目的を達成するために、関連諸団体・個人と連携をとりつつ、次のとおり事業を実施した。

## 1. 「つくろいハウス」等の個室シェルターの運営

- 1) 他の生活困窮者支援団体等と連携をしながら、住まいのない生活困窮者のための個室シェルター「つくろいハウス」(中野区、定員 6 名)を継続して運営した。
- 2) 中野区内及び新宿区内の借り上げ住居において、入居者各 3 名を継続して受け入れた。
- 3) 必要に応じて、「つくろいハウス」入居者及び退所者(約 80 名)への安否確認、福祉・住宅等の相談及び食料支援を実施し、他の生活困窮者支援団体等と連携をしながら入居者や退所者が安定した生活をおくれるための支援をおこなった。

## 2. コロナ禍における緊急支援の実施

- 1) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う住居喪失者の増加に対応するため、2020 年 4 月初旬から 5 月末まで、メールフォームを活用した相談窓口を開設し、駆けつけ型の緊急支援を実施した。同年 6 月に、「新型コロナ災害緊急アクション」に相談フォームを移設し、同アクションと連携して緊急支援を継続している。
- 2) 2020 年 3 月より、個室シェルターの増設に努め、中野区、新宿区などで計 20 室を新たに借り上げた。「新型コロナ災害緊急アクション」等と連携をしながら、運営を行っている。

## 3. 「カフェ潮の路」及び焼きいも作り、「潮路書房」の運営

- 1) ホームレス経験者の仕事づくり、居場所づくりを目的とする「カフェ潮の路」、壺焼きの焼きいも作り、古書店「潮路書房」は、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、2020 年 3 月 31 日から 2021 年 3 月 31 日まで休業とした。「カフェ潮の路」は、2021 年 4 月 1 日より週 1 回(毎週木曜日 12~17 時)、お弁当等のテイクアウト販売という形で一部営業を再開している。焼きいも作りと「潮路書房」も週 1 回(毎週木曜日)に再開している。

## 4. シェアハウス「ハナミズキの家」の運営及び「ことといこども食堂」事業

- 1) 墨田区内の若者向けシェアハウス「ハナミズキの家」(定員 3 名)において、東京の住宅費の高さに悩む若者の受け入れを継続しておこなった。
- 2) 「ハナミズキの家」のキッチンスペースを活用した「ことといこども食堂」は、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、2020 年 2 月 27 日より休業している。

## 5. 他団体と連携した個室シェルターの運営

コロナ禍における感染拡大を踏まえ、NPO 法人 TENOHASI と連携して運営する個室シェルター及びハウジングファースト住宅（豊島区、板橋区、練馬区）を計 21 室まで増設し、住まいのない生活困窮者の受け入れを継続しておこなった。なお、2016 年度から運営してきた「ちはやハウス」（定員 2 名）は、2021 年 4 月末に解約をした。

認定 NPO 法人ビッグイシュー基金との提携のもと、ビッグイシュー販売者など住まいのない生活困窮者のステップハウス兼シェルターとして、「ふたまるハウス」（定員 2 名）を運営している。

「LGBT ハウジングファーストを考える会・東京」と連携をして運営している「LGBT 支援ハウス」も 1 室増設し、2 室体制とした。

#### 5. 東京アンブレラ基金の設立と運営

住居喪失者の緊急宿泊支援のため、都内のさまざまな団体と連携をして、「東京アンブレラ基金」を設立している。同基金では、クラウドファンディングで集まった寄付金をもとに、協働団体（2021 年 4 月末時点で 15 団体）が実施した緊急宿泊支援の費用を補助する事業をおこなっている。

#### 7. つながる電話プロジェクト

コロナ禍での緊急支援活動の経験により、多くの生活困窮者が「音声通話可能な携帯電話を失っている」ことが原因となり、住まいや仕事にアクセスできない状況に陥っていることが判明した。この状況を解決するため、NPO 法人ピッコラーレおよび合同会社合同屋と協働し、本人負担ゼロで通話可能な電話番号を付与した携帯電話を無償貸与する支援スキーム「つながる電話プロジェクト」を 2020 年 7 月に開始した。2021 年 4 月末までに全国の約 150 人に利用していただいている。

#### 8. 生活保護支援申請システム「フミダン」の運営

生活保護の窓口における「水際作戦」をなくすため、2020 年 12 月に生活保護の申請支援を行うウェブサービス「フミダン」の運用を開始した。「フミダン」を利用して生活保護を申請した人へのアフターフォローも行っている。

#### 9. 広報

ウェブサイト及び SNS（Twitter、Facebook）による発信をおこなった。

#### 10. ファンドレイジング

当法人の事業資金を調達するため、クレジットカード等を通じた寄附金の募集等をおこなった。また、他団体と協働して運営するプロジェクト（「年越し大人食堂」等）の運営費を集めるためのクラウドファンディングもおこなった。

## 【補足資料1】2021年4月末段階の借上げ物件の状況

団体単独で運営：個室シェルター27室（つくろいハウス含む）、HF住宅7室、計34室  
TENOHASIと連携して運営：個室シェルター18室、HF住宅3室 計21室  
ビッグイシュー基金と連携して運営：個室シェルター2室  
LGBTハウジングファーストを考える会・東京と連携して運営：個室シェルター2室  
計 個室シェルター49室、HF住宅10室 総計59室

## 【補足資料2】2020年4月から2021年3月までの支援実績

つくろい東京ファンドが2020年4月1日から2021年3月31日までの間、個室シェルター提供や生活保護の申請同行など直接的なサポートをした人は、92世帯94人にのぼった（一度だけの相談や他団体と連携して運営しているシェルターに入居した人は除く）。

この94人の属性や状況をまとめると、下記のようなになる。

- ・94人中、男性は82人（87.2%）、女性は12人（12.8%）。
- ・住まいのある人は7人、路上生活やネットカフェ生活など、住まいのない状態の人は87人。
- ・年齢は17歳から71歳までと幅広く、平均年齢は43.2歳。30代以下が全体の約4割を占めている（10代5.3%、20代17.0%、30代18.1%）。
- ・94人中、団体のスタッフが同行して生活保護を申請した人は79人（84.0%）。残り15人（16.0%）は従来からの仕事を続ける等、生活保護以外の方法で生計を立てている。
- ・住まいがない状態の87人のうち、59人は団体で運営している個室シェルターに入居し、24人は東京都が生活困窮者向けに借り上げているビジネスホテルに入居した。残りの4人は公的な施設等に入所した。
- ・87人中、3月末時点でシェルター等に入居中の人は18人。すでに退所した69人のうち、自分名義のアパートに移った人は53人、グループホームやシェアハウスに入居した人は3人、住み込みの仕事に就職した人は2人、他施設など3人、行方不明8人となっている。
- ・相談時に住まいのあった7人については、全員、その後も従来の住まいを維持できている。